令和８年３月
多摩区役所まちづくり推進部企画課

令和7年度第2回多摩区地域デザイン会議

「たまなび」活動報告会　開催報告書

1 概要

多摩区にゆかりのある３大学（専修大学・明治大学・日本女子大学）の学生を対象にした、「多摩区を知り・学び・実践する」連続プログラム「たまなび」は、今年度、「地域で見守る子育てしやすいまちづくり」をテーマに、第１回多摩区地域デザイン会議「パパと創る子育てデザインワークショップ」にも参加の上、地域の子育て世帯へのインタビューによる意見聴取や、イベントの企画・運営、課題抽出と解決アイデアの検討に取り組んできました。

第２回多摩区地域デザイン会議として、これまでの活動の振り返り結果及び学生目線での新たな課題解決のアイデア等を、子育て支援団体や行政関係者に対して報告・提案し、その内容を元に参加者同士で意見交換を行いました。

2 日時

令和８年１月１３日（火）　１８時００分～２０時００分

3 会場

多摩区総合庁舎６階　防災センター事務局室

4 参加者

参加者　計２４名

- 大学生　９名
- かわさき市民活動センター　竹迫 和代　理事長
- 三田こども文化センター　奥内 朋江　館長
- 多摩区ソーシャルデザインセンター　村田 賢一 氏
- 多摩区　佐藤 直樹　区長
- 多摩区保育・子育て総合支援センター　小林 美樹　担当係長
- 多摩区役所職員　若手を中心に１０名

5 内容

（1）大学生による発表内容

これまでの活動を通して、学生が捉えた多摩区の子育てに関するよいところ、改善点とそれらを踏まえた新しい取組の提案をプレゼンテーション形式で発表し、その内容について意見交換を行いました。

ア　これまでの主な活動について

パパ友同士のつながりのきっかけづくり、地域で子育てをもっと楽しんでもらいたいという目的で実施した「パパと創る子育てデザインワークショップ」（令和７年度第１回多

摩区地域デザイン会議）へのテーブルファシリテーターとしての参加や、実際に多摩区で子育てしているママへのインタビューを通して学んだことを踏まえ、12 月 6 日（土）に、学生たちが自ら企画した親子向けのイベント「親子でつくるスマイルフェス」を多摩区保育・子育て総合支援センターで開催しました。開催にあたり、学生自身が分担してチラシの配布やＳＮＳを活用した広報も行い、イベントでは、３グループに分かれ、それぞれ「防災アドベンチャーすごろく」、「サンタさんにお菓子をあげよう」、「秋冬工作“世界に１つだけのプレゼントを作ろう”」のブースを企画し運営しました。

また、ワークショップやインタビュー、イベント開催等の経験から、多摩区の子育てに関するよいところ、課題を分析し、それに対する改善点や新しい取組の提案をすべく、振り返りを行いました。

イ 活動を通じて学生が捉えた多摩区の子育てのよいところ･改善点

● よいところ

・生田緑地や多摩川といった自然が豊かなところ
・保育・子育て総合支援センターが機能している
・家族ぐるみで子育てしている印象が強い
・家では難しい水遊びができる施設がある（稲田公園、Anker フロンタウン生田など）

● 改善点

・ボール遊びができないなど、思いっきり遊ぶ場所が少ない
・休日に利用できる施設が少ない
・３歳以上の未就学児の遊び場が少ない
・パパ同士のコミュニティが薄い
・トイレや水道がない公園がある

ウ ア･イに関する主な意見交換の内容

・イベントの開催に伴いＳＮＳを活用したとのことだが、対象を絞るために何か意識したことなどはあるか。（区役所職員）

⇒対象を絞るよりも、とにかく広く周知することを重視した。インタビューによると、子どもから目を離せる時にはＳＮＳを見ているという親が多かったので、広報としては有効であると感じた。一方で、アカウント自体の認知度による部分や、情報の周知に時間を要するということがわかった。（学生）

・インタビューの結果をイベント企画につなげており、さらにその結果から課題の抽出、新しい取組の提案を行うというのは効果的で、説得力がある。（区役所職員）

・地域子育て支援センターの利用者は、１歳までの子が多く、３歳以降の子の利用が少ない。また、多摩区には昼食を食べることができて、一日中遊ばせられる施設が少ない。（学生）

⇒２～３歳の子の親の声を聴けたのは貴重な機会。実際には、地域子育て支援センターつちぶちでは、昼食を持ち込んで食べてもらうこともできるし、３～５歳も来て遊ぶ

ことはできるが、行政として広報・周知が課題であると認識している。（多摩区保育・子育て総合支援センター小林担当係長）

エ 新しい取組の提案

提案1

テーマ	多摩区の自然を利用したウォーキングによる子育て世帯の孤立感の軽減
内容	・参加者を無作為に選び、3組の親子を1グループとして、決められたコースをウォーキングするイベントの実施 ・定期的な開催 ・あえて「子育て」よりも「自然散策」として、レジャー要素を重視
期待できる効果	・レジャー要素を重視することで、既存グループだけでなく、リフレッシュを求める新たな親子の参加を促すことが可能 ・ウォーキング中に、子育ての悩みの共有 ・少人数にすることで、絆が深まり、その後の関係性が維持
主な意見交換	・顔見知りグループだけの参加にならないように、広報をどのように行っていくのが効果的だと感じたか。（区役所職員） ⇒長期的にはSNSが有効だが、すぐに周知するには、チラシを関係機関・施設に配布するのが効果的であると感じた。（学生）

提案2

テーマ	多摩区の空き地を活用した新たな公園づくりを1から考える
内容	・近隣の小学校高学年の生徒と、大学生ボランティア、地域住民が一緒になって、ゼロから理想の公園を作り上げる。 ・学校の授業に組み込む。
期待できる効果	・学校の授業に組み込むことで、恒例行事となり、継続性が高くなる。 ・「子どもたち自身が作った理想の公園で、子どもの笑顔が溢れる」 ・子どもや大学生が地域に関わることで、地元愛を育むことができ、若者の地域定着が期待できる。
主な意見交換	・小学校高学年を対象にした理由は。（区役所職員） ⇒高学年になれば、低学年の気持ちも理解して考えることができると考えた。（学生） ・ボランティアも一緒に考えていくのはとてもよいアイデア。（区役所職員） ⇒子どもだけだと実現性が低くなってしまう。また、地域の協力、大学の連携があることでまちづくりの視点からもよいと考えた。（学生） ・若者が地元から離れてしまうことは区の課題でもある。（区役所職員） ⇒対策として取り組んでいることはあるか。（学生） ⇒多摩区の課題として検討していく必要がある。（区役所職員）

提案3

テーマ	生田出張所を活用した遊び場づくり
内容	・「生田っ子広場（屋外）」と隣接しているため、屋内・屋外どちらも利用可能 ・保育園や幼稚園が休みの日に開放できるよう、大学生や地域のボランティアを募る ・利用者への広報は公式 LINE で配信、年齢別に配信
期待できる効果	・既存施設を利用するので、初期投資コストの削減 ・屋内会議室も利用できるので、天候に左右されず遊ぶことが可能 ・「ちょこ涼」に来ている地域住民が一定数いるので、地域住民との交流が期待でき、コミュニティ強化につながる。
主な意見交換	・生田出張所の設備や広場はもっと活用できると思ってはいるが、誰が・何を運営するのかが課題であると感じている。具体的には何をすべきだと思うか。（区役所職員） ⇒ボール遊びや、思いっきり遊ばせたいという声がある一方で暑さ対策が課題であるため、屋内と屋外がセットになっている出張所がベストだと考えた。遊び場として選択肢に上がる候補となればよい。イベントだけではなく、恒常的に遊べるように、目新しさ、マンネリ化対策として、四季を感じられるようなデコレーション作成等もあるのではと考える。（学生） ・LINE を活用した広報の難しさはどのようなところか。（区役所職員） ⇒個別メッセージを可能にすると、利用者にとっては便利な反面、誰が応答、管理するのかは決めていく必要がある。（学生）

（2）講評

（主な意見）

・区内保育園も台風による浸水の経験があり、防災の意識は高いので、よい着眼点である。

・新たな公園づくりは、学校と連携、生田出張所の有効活用は、地域の方々の理解・協力が得られると実現性があがる。

・３歳以降の子どもの遊び場の確保は、区としても課題だと考えている。

・イベントや新しい提案の中には、こども文化センターでも参考にできるものがあったし、取組を通して地域の担い手の発掘にもつながると感じた。

・遊び場が少ないという声は切実で、様々な種類の遊び場が、豊富にある地域が、豊かな地域だと言える。

・市民活動センターも学生と一緒になって、様々な方々が満足できるような場所づくりができたらよい。

・インタビューの中で、こども文化センターの名前があがらなかったのは残念であるとともに、広報に課題があると感じた。

・地域の方々も、学生とも活動したいという声が多いので、一緒に多摩区のことを考えていけたらよいと思った。

・子育て支援のことを考えるときに、誰に焦点を当てるのかは重要である。「普段できないような非日常体験をさせたい」というのは親視点だが、子どもにとっては「慣れないこと」であり、辛いと感じる場合がある。学生の行ったイベント、提案は「子どもが楽しむには」という要素もしっかり考えていたことが評価できる。
・広報は行政の課題であると感じている。ＳＮＳの活用についても、見てくれない人にどう伝えればよいか、いつも悩んでいる。
・行政としては、今回の発表を職員が聞いているので、今後参考にできるとよい。

6 参加者アンケート

（回答数：１５）※学生を除く

※割合の算出は、回答者数ベース（どれだけの人がこの選択肢を選んだか）としています。

Q1. 年代

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	
0	7	3	1	3	0	
0%	50%	21%	7%	21%	0%	

Q2. 職業

学生	会社員・公務員	自営業	パート・アルバイト	主婦・主夫（家事専業）	無職（収入が年金のみの方を含む）
0	12	2	0	0	0
0%	86%	14%	0%	0%	0%

Q3. 本日の開催形式や進行は適切でしたか。

適切だった	やや適切だった	あまり適切でなかった	適切でなかった
11	3	0	0
79%	21%	0%	0%

Q4. 学生の発表を聞いて感じたことを率直に記載してください。【自由記入】

・緊張しながらも、発表や質疑応答に臨む姿勢が新鮮でもあり、頼もしくもありました。

・子育ての場として、こども文化センターの名がでないことは、とても残念に思いました。学生さんがリサーチされたニーズを我々も課題として感じているので、これから何か一緒に課題解決ができたら良いと感じました。

・子育て世代の親にインタビューをして、課題に感じていることと多摩区の特徴を合わせた提案がされていて、どれも良い提案だと思いました。

・川崎市の職員研修でも使われる PDCA サイクルを意識されているのか、活動の流れが綺麗で発表を聞き取りやすかった。

・インタビューを聞いて、課題や推論を出すのはよかったが、せっかく素晴らしいなイベントを開催したのに、その後の考察につながる結果（数字）が少なく大変もったいないと感じた。数字がなければ、その人が思った感想にとどまってしまうため、イベントを行った際は必ずアンケート等を用意し（答えてくれた方には景品を！）、数字が必ず出せる、考察に対し、説得力が出るような取り組みにしたほうが良いと思いました。

・社会人になってから、学生の発表・意見を聞く場面はなかったので刺激を受けました。
凝り固まった思考を脱却するためには、このような機会はとても良いと思いました。

・学生の頃から地域に目を向け、課題解決に向けて頑張る姿が容易に浮かびました。たまなびでの経験を将来に生かして欲しいです。
・学生ならではの提案が聞けてとてもよかったです。日々の仕事での参考にさせていただきたいと思います。
・当事者の生の声を聞いて真摯に取り組んでいる様子に感動しました
・自由な発想や、規模感の大きい提案で刺激を受けました。
・活動を振り返って、学生の感想も話をしてもらえるとより良かったかなと思います。
・実際役所に勤めていると失ってしまった視点を再度確認できたと思います。また最近の広報方法、周知方法は私たち市役所員では考えきれないものもありました。各部署でも取り入れられるアイデアも多いため、今後の参考にさせていただきたいと思います。
・一生懸命働いているというのが伝わってきました。
・多摩区のことをよく考えてくれていることがわかった。

Q5. 学生のアイデアについて、所属する団体(勤務先)等で参考にできそうだと思うものを記載してください。【自由記入】

・現所属課では、ありませんが、市としては関係部署にとっては、企画自体や、広報の仕方や、イベント企画前のリサーチ等の参考になったと思います。特に防災すごろくは、危機管理や消防等の啓発事業にも有効だと思いました。
・防災すごろく、生田っ子広場の活用、幼児親子イベント
・子育て世代が場所を必要としていて、その点は施設が多く行政が貢献できると思いました。
・活動の流れが仕事をこなしていく上での意識に近いところがあったので参考にしたいです。
・防災を絡めたイベントは参考にできると感じました。
・広報の方法、・子供向けイベントの内容
・広報は地域ケア推進課でもすごく悩んでいることでしたので、公式 LINE を使った広報や、Instagram での広報の特徴などについては知ることができて勉強になりました。
・防災アドベンチャーすごろく
・防災すごろくはやってみたいなあ
・自然を堪能するウォーキングイベントはいいなと思いました。
・既存の施設を活用したイベント発案(公民混同)
・子供へのアプローチの仕方は参考にできるなと感じた。
・広報のやり方

Q6. 今回、参加して良かったと感じる点はなんですか。

地域課題への気づきがあった	区や地域に興味を持つきっかけになった	学生らしい考え方、新鮮なアイデアに触れることができた	参加者の様々な意見を聞くことができた	特にない
10	2	12	9	0
30%	6%	36%	27%	0%

Q7. 子育て世帯が感じている悩みについて、特に課題だと思うものにチェックしてください。【複数選択可】

困っている時、身近に頼れる人がいない	パパ友・ママ友がいない	地域でのつながりがない	地域にどんな子育て支援施設などがあるかわからない	どこに相談すればよいのかわからない	特にない	その他
8	2	8	4	6	0	1
28%	7%	28%	14%	21%	0%	3%

Q8. 子育て支援に関して、区役所に期待することとして該当するものにチェックしてください。【複数選択可】

地域でのつながりのきっかけづくり	悩み事の相談ができる機会の提供	子育て関連施設や地域イベント情報の広報	子育てまつりなど、家族で楽しめるイベントの開催	その他
9	7	10	8	0
26%	21%	29%	24%	0%

Q9. 本日の感想や意見など、自由に記載してください。【自由記入】

・今回の発表で、子育て当事者と行政だけではなく地域全体での見守りやサポートが、未だまだ必要だと実感しましたし、広報の難しさも改めて感じました。将来的に、定年後は地域の子供と高齢者をまとめてサポートするボランティアに参加できると良いな…と、思い参考になればと、参加させていただきましたが、大学生の力が加わるのは地域としては心強い事ですし、継続的に関わってもらえれば、川崎市（多摩区）にとっても頼もしいパートナーになると思いました。

・気づきと課題、それらをしっかり把握し、こども文化センターも子育て支援に当たれればと思います。今日は、参考になる報告が聞けて良かったです。発表ありがとうございました。

・それぞれの班が子ども視点や親視点で提案を行っていて、子育てしやすい街づくりにも色々な視点があることに改めて気付かされました。
・学生たちの新鮮な意見に触れることができ、大変刺激になりました。
・色々な意見を聴くことができ、勉強になり、刺激を受け、楽しかったです。ありがとうございました。
・試験中の中、プレゼンテーション等準備ありがとうございました。とても、良いプレゼンテーションだったと思います。
・面白かったですが、開催時間を日中にしていただけると嬉しかったです。
・貴重な機会をいただきありがとうございました。

7 開催結果を踏まえた今後の取組について

今回の開催を通じて、学生が地域の子育て環境を多面的に捉えた上で、当事者の声を踏まえた具体的な提案が示されたことは、多摩区にとっても大きな成果になりました。特に、３歳以上の未就学児の遊び場不足、地域でのつながりの希薄さ、広報の難しさといった課題は、多くの参加者からも共通して指摘されており、今後の取組において優先的に対応すべき視点であると再確認しました。

また、学生による新しいアイデアは、既存資源の活用、地域・学校・大学との連携、子ども主体のまちづくりなど、行政の取組を推進するにあたり必要な観点でもあることから、関係部署へ情報を共有・連携の上、「地域で見守る子育てしやすいまちづくり」の推進に資する取組やイベント等の具体化に向けて検討する際に参考としていきます。

さらに、今回の活動を通して、学生と地域団体・行政が意見を交わすことによる相互の刺激や、新たな視点の獲得が大きな効果として確認でき、今後も、「たまなび」や地域デザイン会議等を、地域の担い手育成や若者の地域参画の入口、継続的な協働の場としても充実させるべく取組を進めていきます。

今後は、本会議で得られた知見を踏まえ、地域団体・支援機関・団体・行政がより緊密に連携し、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくり、地域のつながりづくり、そして子どもたちがのびのびと育つ「多摩区らしい子育て環境」の実現に向け、引き続き関係部署とともに検討していきます。

（参考）資料編

1 当日の様子（写真）

2 区HP

現在位置 トップ > 多摩区の魅力・みどころ > 魅力ある区づくり > 多摩区地域デザイン会議 > 「たまなび（大学生の地域参加促進事業）」活動報告会を開催します！

「たまなび（大学生の地域参加促進事業）」活動報告会を開催します！

公開日：2026年1月9日
更新日：2026年1月9日

概要

令和7年度第2回　多摩区地域デザイン会議

『たまなび（大学生の地域参加促進事業）活動報告会』

「たまなび」は、多摩区にゆかりのある3大学（専修大学・明治大学・日本女子大学）の学生を対象にした、「多摩区を知り・学び・実践する」連続プログラムで、今年度は「地域で見守る子育てしやすいまちづくり」をテーマに地域の子育て世帯の声を聴取し、イベントの企画・運営、課題抽出と解決アイデアの検討に取り組んできました。

この度、令和7年度第2回多摩区地域デザイン会議として、これまでの活動の振り返り結果及び学生目線での新たな課題解決のアイデアを、子育て支援団体や行政関係者に対して報告・提案し、発表内容を元に参加者同士で意見交換します。

実施概要

日時

令和8年1月13日 火曜日　18時00分～20時00分

場所

多摩区役所6階防災センター事務局室

内容

- 大学生による発表（3グループ）
- 質疑応答
- 意見交換、講評

※詳細な内容は変更となる場合があります。

その他

傍聴希望の方は、直接会場までお越しください。

※関係者以外の写真撮影・録画・録音は禁止とさせていただきますので、予めご了承ください。

「たまなび」について

多摩区にゆかりのある3大学（専修・明治・日本女子）の学生（大学生・院生）が参加し、「多摩区を知り・学び・実践する」プログラムです。

関連記事

- 「たまなび」について

地域デザイン会議とは

地域デザイン会議は、区民の皆さんが参加し、地域のことを話し合い、地域課題の解決につなげていくためのものです。

地域コミュニティが希薄化する中、「知り合いがいない」、「相談できる人がいない」など、地域で見守る子育て支援の推進に向けて、孤立感から生まれる負担感の解消が課題となっています。多摩区では、こうした課題に対し、令和7年度地域デザイン会議を通して、多様な主体同士で意見交換する場を設け、解決策の模索や新たなアイデアの考察等を図ります。

関連記事

- 地域デザイン会議について
- 多摩区の過去の開催状況

お問い合わせ先

川崎市多摩区役所まちづくり推進部企画課

住所: 〒214-8570 川崎市多摩区登戸1775番地1

電話: 044-935-3147

ファクス: 044-935-3391

メールアドレス: 71kikaku@city.kawasaki.jp

コンテンツ番号183541